

令和 7年度

事務事業評価表 (令和 6年度 の実績評価)

記入年月日
令和 7 年 4 月 1 日

事務事業名		消防団火災出動・火災警戒出動事業					事業区分		担当		
							新規/継続	継続	事務事業No.	030102000678	
							単独/補助	単独		020801	
政策体系	総合計画の施策名		0301 消防・防災対策の充実							所属課	防災課
	政策名		03 安全安心な暮らしのまちづくり							課長名	
	施策名		01 消防・防災対策の充実							グループ	防災
	手段名		02 ②消防防災体制の強化							担当者名	
		財務会計上の位置付け					事業期間				
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計				
	01	09	01	02	01	00	非常備消防事業				
法令根拠	桜川市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例 桜川市消防団の運営に関する規程										

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要 (事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
<ul style="list-style-type: none"> 火災発生時に分団は参集基準により現場へ参集し、消火活動を実施する。消防団本部は現場指揮本部または現場付近で分団の指揮命令に当たる。鎮火したのち、全員現場指揮本部付近へ集合し、参集人数を報告し、現場指揮責任者の訓示を受ける。 不審火などが発生した際は、警戒期間を設定し対象地区を担当分団が巡回する。また、各地区から行事(どんど焼き、芝焼き等)の際に警戒の依頼があるので、担当分団は現場で火災の警戒に当たる。 台風などの接近で風水害の恐れがある時は、消防団本部の指示により被害に備え分団がそれぞれの詰所へ待機する。 風水害発生時は消防団本部の指示により分団が現場へ赴き、必要な応急対策を実施する。 地震が発生し被害が大きいと思われる時は、消防団本部の指示により分団が 	<ul style="list-style-type: none"> 火災出動・・・現場へ赴き、火災発生箇所、水利箇所、ホースの接続状況、出動人数を確認し、後日消防署へ消防団の出動状況を報告する。 風水害及び地震災害出動・・・消防団本部が参集する各庁舎へ同席する。被害の取りまとめを行い職員のみでは対応できない事案が発生した場合は消防団本部へ報告し、応急対策を実施してもらう。 出動報酬支給・・・条例に基づき消防団員の出動種別回数に応じて報酬支給の手続きを行う。火災及び災害の日時と出動した分団、人数を把握しておく。

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	05年度 (実績)	06年度 (実績)	07年度 (計画)	08年度 (目標)	09年度 (目標)
・火災及び災害時の消防団活動の記録、消防団との連携	火災出動回数	回	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
	風水害出動回数	回	1.00	3.00	3.00	3.00	3.00
	地震災害出動回数	回	0.00	1.00	1.00	1.00	1.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	05年度 (実績)	06年度 (実績)	07年度 (計画)	08年度 (目標)	09年度 (目標)
・火災及び災害現場	火災発生件数	件	20.00	44.00	20.00	20.00	20.00
	風水害発生件数	件	1.00	0.00	3.00	3.00	3.00
	地震災害発生件数	件	0.00	0.00	1.00	1.00	1.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	05年度 (実績)	06年度 (実績)	07年度 (計画)	08年度 (目標)	09年度 (目標)
・火災を最小限に抑える。 ・災害による被害箇所を現状復旧する。	消火活動件数	件	6.00	34.00	34.00	34.00	34.00
	風水害現場応急対策実施件数	件	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	地震災害現場応急対策実施件数	件	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移

投入量	事業費内訳	国庫支出金	千円	0	0	0		期間限定 総投入量
		県支出金	千円	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0		
		使用料・手数料	千円	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0		
		一般財源	千円	11,601	12,221	15,195		
		事業費計 (A)	千円	11,601	12,221	15,195		
	正規職員従事人数	人	4.00人	4.00人	4.00人			

事業費の内訳	06年度事業費 実績 (千円)			07年度事業費 予算 (千円)		
	01 報酬	12,221		01 報酬	15,195	
		合計	12,221		合計	15,195

(4) 当該年度の実施内容

※年度ごとに事業内容を記入する	07年度の事業内容	08年度の事業内容	09年度の事業内容
	火災出動業務 行方不明者搜索業務 出動報酬支給事務	火災出動業務 行方不明者搜索業務 出動報酬支給事務	火災出動業務 行方不明者搜索業務 出動報酬支給事務

事務事業名	消防団火災出動・火災警戒出動事業	事務事業No.	30102000678	所属課	防災課
(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?					
<ul style="list-style-type: none"> 消防団は火災や風水害、その他の災害現場で生命、身体及び財産の救護に当たり、損害を最小限度にとどめて災害の防御及び鎮圧に努める責任を負っており、設置当初からこの活動を行っている。 社会の就業形態が変化していく中で、消防団員の会社員の占める割合が増加しており、日中の火災及び災害時の出動人員の確保が困難になってきている。 					
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?					
<ul style="list-style-type: none"> 消火活動を迅速に行えるよう、常備消防との連携を密にし、協力体制を強化して欲しいという意見がある。 					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ・火災や災害発生時はまず第一に住民の命を守らなければならないので、消火活動や応急対策を実施することは安全で安心して暮らせる生活環境づくりに結びつく。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ・消防団が常設消防と協力して火災や災害現場で対応することで、市民の安全と安心が守られるため市が行うことは妥当である。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ・日中の出動人員の確保が困難になってきているため、機能別消防団員の確保や市役所職員の入団促進を検討し行っていくことで、日中の出動人員を確保し火災及び災害対応の効率化や迅速化を図れる。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ・常設消防だけでは活動に限界があるため、消防団の活動は欠かせないものである。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない ・常設消防と連携を密にすることにより、現場での対応能力が向上すると思われる。日頃の訓練においても常設消防と一緒に実施することでその効果が期待できる。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ・事業費は各種出動に伴う費用弁償であるのでその回数が減らない限り、削減の余地はない。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 市民の安全と安心を守るための事業であり、市が負担することは妥当である。市内における火災や災害の発生時には、地区や場所に関係なく活動を行うので、すべての市民が受益者であり特定の受益者はいない。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇨	令和6年度は令和5年度より建物火災が多かった。現在も日中の出動人員確保が課題となっており、消防団の組織再編を検討することで対応していくことが考えられる。また、現場での対応能力向上のため、常設消防と共に訓練を行うことが市民の安全と安心を守るため必要である。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th rowspan="2">向上</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		成果	向上	コスト			削減	維持	増加				○			維持					低下			
成果	向上	コスト																								
		削減	維持	増加																						
			○																							
	維持																									
	低下																									
在籍する団員で個人事業主や自営業が多かったため日中でも出動できる人員が多かったが、現在は会社員が増加し、勤務地が市街地で務める団員が多く、勤務時間内に災害があった際には出動できない事態である。そのため日中の出動人員の確保は急務である。また、現在組織再編計画を進めているが、これらを解決するためには災害時のみ出動する消防団OBで組織する機能別消防団員や市外に居住する職員で構成する市役所隊など導入を検討していく必要がある。また、現場で一人ひとりの災害対応能力を向上の必要性があり、常備消防と共に災害時の連携強化を図りながら実践に即した訓練に精通することが市民の安全と安心を守るために団員にとって必要不可欠である。		(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 <input type="checkbox"/> ①																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input checked="" type="checkbox"/> 確認